

船井情報科学振興財団 留学報告書 7

神宮 亜良太

2025 年 6 月

ドイツ Saarland University Computer Science PhD 四年目の神宮です。船井情報科学振興財団の七回目の報告書になります。

1 Google XR インターン

Google Zurich の XR (= Extended Reality, AR/VR/MR らへんの総称) 部門で 6-9 月にかけて 12 週間の研究インターンをする事になったので、今回はそれについて自分が言っても大丈夫そうな事をまとめます! NDA の関係上、詳しい研究内容は論文発表される際に紹介します。

1.1 Android XR

最近の Google I/O で Android XR の AR グラスがお披露目されたのを観ましたでしょうか? [Live Demo](#) がとても格好いいので見ることをお勧めします。今回僕が研究インターンをするのが、この Android XR のプラットフォームを作っている部門です。Android XR では実世界に空中 UI を配置するのですが、自分のインタラクションでは物理計測、AI, computer vision 等の技術を使ってその UI を改善することに従事する予定です。

1.2 Zurich

図 1 のように、Zurich には Big Tech の支社や AI に強い組織が集まっており、ヨーロッパの tech hub のような雰囲気があります。スイスは生活コスト・給料共にヨーロッパで一番高いとされています。これは Tips なのですが、スイスで学生・研究される方は Facebook の”ETH 日本人会”というコミュニティに入ると、ルームシェアの募集や安い物件の紹介情報などを入手できます。過去の賃貸経験から、僕は downtown の近くの一人部屋を選んだのですが、自分が今ドイツで住んでる部屋の 4-5 倍します...

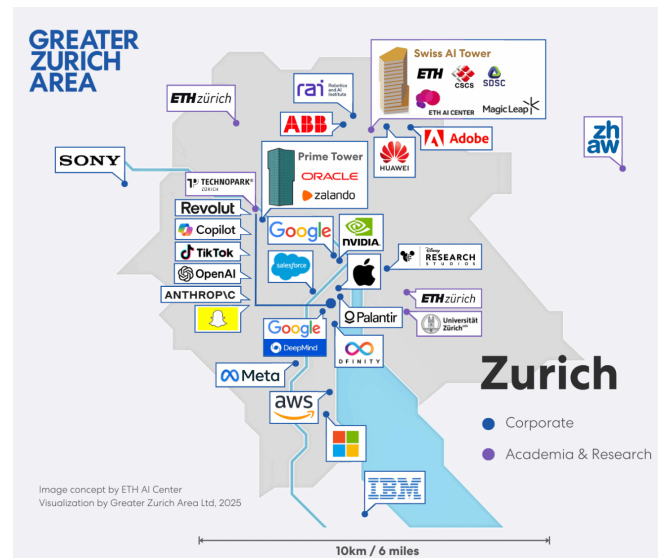


図 1 Greater Zurich Area より引用。

2 Industry Intern の応募について

元々今年の夏にどこかの企業で研究インターンをしたと思っていて、去年から動いていました。その応募過程と考えた事をまとめます。

2.1 応募

去年の 10 月ほどから研究インターンの応募を探し始め、Meta (リファラルあり), Microsoft, Adobe, Google の公募フォームから書類提出をしました。Meta の Manager や Recruiter からは連絡自体は返ってきましたが、自分のスキルセットと相手の求めるものが違ったため、インターンには繋がりませんでした。それ以外の公募は連絡すら来ませんでした。その時期にちょうど Google PhD Fellowship のメンター (Google の研究者) と Zoom で話す機会があったので、インターンを応募しているかどうか直接聞きました。Google では自分が PhD で主にやってきた Haptics 分野をやっておらず、最初は微妙な反応をされました。しかし、自分が過去に Computer Vision や Machine Learning の実装

経験があることを話して Visual UI 系の研究でも大丈夫だと話し、ミーティング後に過去のプロジェクトのリンクを送りました。すると、彼が興味を持ってくれてそれ以降の段階に話が進むことになりました。

2.2 面接

正式にインターンが決まるまでに、面接が 2 回ありました。自分の場合は、第一面接では自分が今までやってきた研究に関する即興のプレゼン/discussion、第二面接ではインターンでやるトピックに関する深い discussion をしました。エンジニアインターンとは違い、研究インターンにおいてはコーディング試験はスキップされるそうです。また、候補者が他の industry インターンに行く可能性を考慮して、最終面接でもまだ複数人の候補者がいたようで緊張感がありました。

2.3 インターン決定後

おそらく 2 月下旬ごろに Google のインターンが正式に決定したと思います。インターン決定前もインターン決定後もそうですが、怒涛の書類提出が求められて、大企業だな～と思ってました。また、恐ろしいことに、[企業からインターンのオファーが来たとしても、スイスでの労働ビザが降りなくてインターンを諦めざるを得ないケース](#)もあるらしいので、そこら辺はしっかりマネージャーに事前に確認すると良いと思います。自分のマネージャー曰く過去のインターン生は皆ビザがおりてたとのことで、おそらく出身国によって違うのだらうなと思います。僕の場合も大丈夫でした。

2.4 アドバイス

Industry の研究インターンに興味がある方へのアドバイスをまとめます。

(1) Industry Researcher とたくさんコネを作ろう。 コネがない状態での応募は闇に葬られる可能性が高い。今回運良く Google インターンが決まりましたが、Google PhD Fellowship のコネがなかったら、インターンには至らなかったらうなと思います。

(2) 応募に完璧に合う実務経験が大事。 これはアカデミアと少し違うなと思うところで、自分の観測範囲ではアカデミアで PhD や PostDoc を取るときは、Candidate のアイデア力や特殊性が重要

で、何を実際にやるかは決まってない、という場合がよくあるような気がします。一方、Industry の場合は最初から取り組むトピックが決まっている場合がほとんどで、それを 3-6 ヶ月で確実に実行できそうな人を選んで契約を結ぶ、という方式だと思います。そのため新しいアイデアを提案する能力とかはほぼ関係なく、どういう実務経験があるかの方が重要なのだらうと思います。

(3) 早期から公募を確認しておこう。 凄く身もふたもないことを言うと、将来 Industry でのインターン・就職に少しでも興味があるなら、自分が PhD で取り組むテーマがそれに繋がるかを早い段階(できれば PhD を始める前)に考えた方が良いでしょう。PhD は博論でのまとまりを考えながら 4-5 年間一貫した研究テーマに取り組むので、途中で自分の興味が変わったからといって、いきなりテーマを変えるのは難しいです。

2.5 まとめ

将来 Industry で職を探したい人にとって、Industry インターンは重要な経験です。PhD のどの段階で行くかは人によりますが、いずれにせよ早めに要項等を確認しておくの良いと思います。インターンの選考期間は長期にわたるので、不安にもなるとはありますが、ぜひ頑張ってみてください！！